

刊夕日十三月一十

# 常磐每日新聞

定額一圓二角五分  
廣告料五號十一字一圓一行金五拾錢  
日曜祭日の翌日休刊  
發行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日新聞印刷局

## 陣中想出話 (二)

平町出身  
歩兵第九聯隊 水野重光  
第三中隊

### ◇連絡兵の一日

時は初秋の涼風何んとな  
く味はつた我等の軍装をた  
よはしむる九月十二日  
あつた空は晴天白日なる秋  
輝のじり／＼暑い日であつ  
た、中隊は突兵で我第一小  
隊は突兵小隊内私等二年兵  
の長で長以下六名を以て突  
兵と中隊間の連絡の任務を  
據けられた。

頃まで進んでゐた、突然突  
兵小隊は歩を止めた何事な  
らんと計り見て居た處、す  
るとく傳騎は後方へ馳せ去  
つた、其の内に鮮人通譯が  
支那人の道案内の者と道路  
の兩側にある二三軒を指差  
して居る時に連絡が通じた  
即ち「前方の部落内に匪賊  
在り」の報告なりてはと計  
り極度に精神を緊張し一時  
に勢が付いた様に感じた見  
る／＼内に各分隊は區處せ  
られ家屋をし今か／＼と云  
ふ様な姿で騒ぎ始めた、連

### ノット

しゆす地  
の洗ひ方  
はしゆす  
地を微温湯の洗濯液ふの  
りかラックスにひたし板  
の上におき刷毛を糸目な  
りに使はないと糸がよれ  
ます

空すみ渡つた秋の朝出發  
より實に愉快味を感じて面  
白く任務を果しつゝ集結せ  
る手強ひ匪賊との交戦でも  
無いかと考へつゝ目的地へ  
向つて歩みを續けた途上連  
絡が悪ひなどと上官より種  
々なる注意を受けたものも  
あつた、自分は連絡兵の中

## 高月會句抄 (七)

### 秋の蠅

貼り替へし障子鳴らすや秋の蠅  
長病みのやつれて一つ秋の蠅  
小春日や我子眠りて蠅憎くし  
茶湯呑に日溜り／＼来る秋の蠅  
讀みすてし小説を這ふ秋の蠅  
近寄ればすくに居直る秋のはい  
秋のはい障子に這ふて日はしづか

秀 秀 千 紅 紅 石 石  
峰 峰 鳥 果 果 水 水  
水

絡は後方へも遞傳して連絡  
長以下吾等も其所へ増員し  
た其の間に中隊長も到着し  
敵線へと乗り込んだ、右側  
の家に走行つた處分隊長○  
上等兵は部下と共に勇敢  
に奮斗の真最中自分等は外  
方の監視に任り待ち居つた  
分隊長は其れ敵は後へ行つ  
たの別の方へ行つたのと  
云つて丁度動物でも追廻し  
てゐる様な氣で大騒ぎ時に  
外方監視の自分も離れより  
逃げ去らんとした三四名の  
敵を發見し之に對していき  
なり射ちかけた射撃に驚き  
身を堅めた敵兵はこれとは  
ばかり走り去つた、其の内  
に小隊長殿は氣を附けよ附

### 二明日の献立

【朝】わかめ 豆腐 みそ汁  
【晝】蛤 時雨やき さし  
がきごぼうのうま煮  
【晚】おろしかぶ たまご  
汁 薄くずわさび

と御注意の聲、各員は無我  
無中で争鬭を續けた、やゝ  
あつて銃聲はやんで全員各  
家屋へと屋内掃蕩にのり込  
んだ其所には數十頭の乗馬  
を放棄してあつた小隊長の  
お喜びは何ならん戦斗には  
勝利數十頭の馬を占領實に  
嬉しかつた、やがて占領し  
た乗馬にて歩兵の騎兵隊を  
造り一同無事元氣旺盛に本  
日の宿營地へと急いだ。

## 共濟病院

院長 醫學博士 石山謙  
外科 醫學博士 石山謙  
小兒科 醫學博士 石山謙  
喉科 醫學士 桂馬重  
皮膚科 醫學士 有馬雄二  
産婦人科 醫學士 五十嵐  
X光線科 醫學博士 佐久間  
衛生試驗所 技師 石山謙  
藥局 技師 高石藤慶  
診療時刻 午前八時より午後五時迄  
但急患は此の限りに非ず  
平町 磐城共濟會  
電話 六四一番

## 吸入用酸素純度99%

度量衡  
モノサシ  
マノサス  
ハカリ  
体温器  
寒暖計  
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

## 關内藥局

電話四〇番

磐城セメント會社特約店

## 釜屋商店

磐城平町五丁目 電話九番九九番  
良品廉賣に勝る商略なし  
確實敏捷は釜屋の生命なり

◎高價買入 金、銀、債券  
◎安價販賣 時計と眼鏡  
◎親切勉強 時計のお直し  
平驛前通り  
星野時計店



六三四電通場車停目丁四町平

耳鼻喉科専門  
入院 平町田町七〇番地  
山内醫院  
醫學士 山内享吉  
電話六九一

内科 平町新川端(釜屋新宅向)  
一般 醫學博士 難波陸  
電話五〇二番

内科・小兒科・花柳病科  
藤沼醫院  
入院需應 平町紺屋町  
電話五〇七番

# 東北帝大教授一行

## 常磐炭炭界調査

### 坑内の瓦斯含有量を測定

#### 研究結果注目さる

常磐炭界に頻發する瓦斯爆發、落盤、出水等戰慄すべき坑内事故の防止に就いては炭礦側は勿論の事各方面で研究を進められてゐるが東北大學の近藤博士坂講師等一行五名は来る五日から約五日間の豫定で磐城、入山、古河の三大炭礦以下常磐炭界一圓の坑内を視察坑

内瓦斯の含有量を調査測定する旨發表された前記近藤博士一行の調査結果に依つて研究が完成されれば坑内瓦斯の爆發が完全に豫知出来る事となり恐ろしい瓦斯爆發の慘害から解放される事になるので同博士一行の調査結果は非常に注目されてゐる

## 北滿の野に活躍の

### 町出身兵慰安

#### 新田町花街美妓連の

##### 寫眞を添へて

平町在郷軍人分會愛國婦人會では目下零下三十度の嚴寒北滿の野に惡戰苦闘する平町出身の皇國の勇士に對し慰問袋を贈べく計畫し一般からの寄附募集に着手し

たが此の計畫をした同町藝妓屋組合では大小百餘の美妓連の寫眞を一枚宛慰問袋に入れて贈りたいからと申出た

## 熱狂裡に成功の

### 石井漢舞踊會

#### 純益金は社會事業に

既報平町助成會及び縣社會課主催の石井漢舞踊會は昨廿九日晝夜二回に亘つて聚樂館に催されたが入場券

合計三千に達し殊に夜の部は定刻前満員立錐の餘地ない盛況を見た石井氏の舞踊解説と力と熱の演藝に魅せ

引いた純益を縣及び助成會が兩分する事になつたが同會の収入は百二十三圓と見られる

#### 津田校長寄贈

二小學校長津田達造氏は本日尺任記念として校庭に茶山花四本を寄贈植樹した

#### 磐女職員野球

高等女學校職員對平法曹團の野球試合は来る三日午後一時より磐女グラウンドに於て舉行

## 寄せられた同情に

### 各濱が感謝

#### 新妻四倉町長等が

##### 昨日出福す

本郡漁獲地では過般の激甚な暴風雨被害に對し縣當局を始め縣内各方面から寄せられた温い同情や義捐に對し感激して四倉町長新妻盛小名濱町長鈴木榮、江名町長河野嘉藏、豊間村長鈴木藤次郎氏始め各漁業組合長等十餘名が代表で昨廿九日出福縣當局を始め關係各方面に對し深厚な謝意を表したが尙代表一行は新造漁船に對する低利資金の特別融通方を陳情した

## 郡内産業組合の

### 聯合總會開催

#### 災害復舊と産業の

##### 五ヶ年計畫協議

石城郡産業組合では来る十七日午前九時から平町團體事務所にて郡内各種産業組合廿六全部の組合長聯合會を召集し地方産業の五ヶ年計畫に對する各種の對策を始め暴風雨による災害の復舊策を協議する事となつた

高久村品評會 石城郡高久村農會では四日から

二日間同村小學校に農産品評會を開催する事になり數日前より受付を開始したが既に出品百餘点に達して居ると

## 水害 義捐金

救濟 (拾圓)酒井秀次郎(五圓)廣瀬支店 藤沼醫院 大黒屋 洋品店(參圓)永木八五郎

高木果物店 江尻直治 佐川洋服店 猪狩嘉平 石川友次郎 矢吹大輔 大谷要次郎 山城屋 渡邊千賀子 星野清吉 織田材木店(貳圓) 山崎孝之助 山崎活版所 堀藥局 山家メリヤス 店 三井文吉 望月金物店 遠藤帽子店 マルトモ書店 若松醫院 早川材木店(壹圓) 馬目支店 紙屋米店 根本時計店 引地精一 入江酒店 小計八十六圓累計八百七十八圓

## 磐中選手の

### 体格検査

身長は球技 体重は柔道

磐城中學校では此の程各部運動選手の体格検査を行つたが結果は左の如くで身長は球技体重は柔道が一番よく發達してゐる

- △球技 身長一六八、三種 体重五二、八斤 胸圍八一、五種
- △柔道 身長一六二、五種 体重六〇、五斤 胸圍八七、八種
- △劍道 身長一六四、八種 体重五七、八斤 胸圍八六、〇種
- △陸上競技 身長一六二、〇種 体重五三、〇斤 胸圍八三、〇種

## 平町人事

### 出生

△彌宜町四三〇吉田松吉氏 三男秀夫

### 結婚

△高知縣高岡郡越知町中村進(三三)一丁目二木村ミヤコ(二〇)

看護婦急派の求めに應じます

平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

## 市原醫院

### 平町田町(電話一一四番)

内科、小兒科 市原卯太郎  
外科一般、婦人科 市原陸郎  
外科、梅毒、淋病 市原三三男

入院隨時

## 味覺の秋

### 骨ごとバリ／＼かじる

#### …小鳥のつけ焼…

中でウマイのはアオジロ、スズメ……  
御酒によし御飯によし——御家庭にも一度御試食を頂ます

鳥 菊  
平町南町(電二八六)

## 高久病院

院長 醫學士 高久 忠  
副院長 新潟醫學士 赤羽 清  
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

内科小兒科 外科花柳病科  
耳鼻咽喉科 牙科

平町田町 電話五二三番

# でははない話

## 自動車助手の正吉君が

### 田町大通で拾ったのは

## 五百圓の國庫債券

平町二丁目子自動車部助手鈴木正吉(一)君が昨廿九日午後二時頃田町清水病院前の大通を通行中風に吹かれてヒラヒラ路上を舞つてゐる彩色美しい紙片があるの何気なしに拾ひ上げて見ると大きく『五百圓』と記入された真正正明の國庫債券……

へて早速平署に届出たが持主は搔搔小路色川材木店主の色川勝三郎氏と判明伴の五百圓國庫債券と引替へに手の切れる様な拾圓札三杯を謝禮に受け取つて大ニ……

本日までの福運者 三井呉服店の福引當籤決定 三井呉服店では去る二十五日より福引景品付にて七五三の祝着を賣出して居るが本日迄の福運者は左の如くである

- (特等) 泉村小野 大町只野
- (一等) 植田町大平ユキ
- 長橋町鈴木傳 公園下大河内 小名濱金成 關の上 西山下駄店
- (二等) 搔搔小路小室 三丁目山野邊昇 草野磯井 南白土江尻庄作 内郷宮石川三郎 湯本大江川

## 怨みの放火女に

### 懲役二年半求刑

#### 言渡は来る六日

既報石城郡内郷村大字綴字堀坂二十五番地居住田村郡移村生れ日備坂中クラ(五)が本年七月三十一日午前三時頃同所十五番地内留治が内縁の夫菅野廣治を散々悪罵したのに憤慨して放火した事件の公判は昨日午後二時より平支部に於て中島裁判長係り關口、竹内兩判事陪席小林検事立會新田目官選辯護士列席の下に開廷され事實取調べの上検事の論告あり懲役二年六ヶ月を

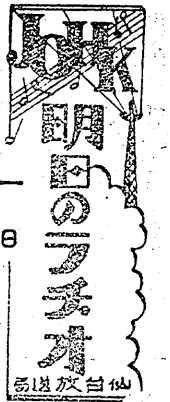
求刑後辯護士の辯論あつて午後七時閉廷したが言渡しは来る六日である

## 注文客に化けて

### 染物屋をゆする

前科男平署に檢舉 餘罪もあるらし

昨廿九日九時頃平町南町鈴木染物店方に泥酔した一名の労働者風の男が絆纏の注文に來たと稱して主人に面談の場句今度は車賃を貸せと方み返り手古摺つてゐた



今夜も明日も 東の風晴れ

## 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間  
お話し「児童唱歌コンクールの審査を終つて」中央審査委員長長乗杉嘉壽  
後七、〇〇 物真似の夕  
聲色吹き寄せ 橋家勝太郎 落語落語家物真似鈴

## 明日の部

氣象通報 番組豫  
前九、一〇 料理献立「子供のおやつジャム入りオムレツ」成田玉純  
前一〇、三〇 家庭講座「家庭に於ける工業常識」津田信良  
後一〇、〇五 長唄と音曲 坂東こいそ外  
後二、〇〇 家庭大學講座「倫理學」東大教師大島正徳  
後四、二〇 講演「ラジオ

## 放浪生活から

### 脱れ行く人妻

夫よ！跡を追ふな？

石城郡豊間村字薄磯木賃宿二見屋方宿泊人金子金一(三)の内縁の妻宮城縣栗原郡大島澤村生れ蘇武ハシメ(三)は永年の流浪生活が嫌

## 路頭に迷ふ……

### 失明の老爺

#### 平町で救済保護

平町役場に昨廿九日夜九時頃一名の老ルンペンが救済方を願出たので係員が事情を聞くと同人は東京市南千住五丁目生れ山田庄作(七)で四十年前より各地を放浪して居たが本年六月仙臺市で労働して居た際右眼を失明した爲め郷里へ歸る途中

無一物となつたものであるが前記生地に身寄りのものもないので途方に暮れ斯くは救済方を願出たもので係員も同情して行路病舎に收容保護してゐる

奇篤な雜貨商 平町 鎌田町雜貨商武子榮助(三)

は廿八日商用で四倉町に出掛た際水難難者の遺族に同情して金五圓を四倉町役場に寄附した

## 小名濱町で

### 除隊兵歓迎

石城郡小名濱町役場では昨廿九日午後一時より小學校に於て過般歸郷した同町鈴木榮治外四名の除隊兵歓迎會を催した

## 平裁判たより

- 石城郡内郷村大字内町字金坂七十三番地古物商飯島千代松(六)は本年五月十五日頃より六月頃迄古銅線及び其の他の古物類を買受けながら所定の帳簿に記入せず古物商違反として罰金二十圓
- 同郡勿來町字出倉大日本炭礦飲食物販賣業佐藤幸之丞(五)は無免許で本年一月頃より營利の目的で川部村齊藤稻藏外四名子女を栃木縣芳賀郡方面に周旋し手数料として合計四十五圓を受け取り營利職業紹介事業取締規則違反として罰金三十圓
- 回人を求める方
  - △女中、二十才、尋卒、給料面談(平町某)
  - △出前持、十八才、尋卒、給料面談(双葉郡某)
  - △土工、二十九才、尋卒、給料面談(平町某)
  - △洋服工、十六才、高卒、給料面談(内郷村某)
- 回人を求める方
  - △外交員、四十才迄、高卒、給料面談(平町某)
  - △洋裁見習、十六才、高卒、仕着小遣(平町某)
  - △兒守、十六才、尋卒、給料面談(平町某)
- 回職を定める方
  - △女中、二十才、尋卒、給料面談(平町某)
  - △出前持、十八才、尋卒、給料面談(双葉郡某)
  - △土工、二十九才、尋卒、給料面談(平町某)
  - △洋服工、十六才、高卒、給料面談(内郷村某)

# 泰来剣士

【禁戦上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫雲畫

第二百十二席 平手造酒

磯右衛門捕はる  
磯右衛門は長脇差を抜いておしんを追ふおしんは人殺しと、叫んでこの家を飛び出した、それに續いて磯右衛門も表へ出た、この時この野郎めと、サツト棒にて打つて来たものがある、磯右衛門はそれを拂ひ上げ何者かと見れば其れは利助であつた

磯「われは利助か、よい處で逢つた、おしんと共に地獄へ行け」

利「洒落た事を吐しやがるな」

と無二無三に打つてかゝる、おしんはそれにある石を拾つて打付ける、磯右衛門はそれ等を事ともせず、踏込み、斬付ける、利助の持つてゐた棒は半から切られた

しん「人殺し——誰か来てと云ひながら逃るを何處までも追駈ける磯右衛門折しも向より来たは此の邊の役人目明しは十手取直し」

目「御用だ、神妙にしろ」

と云ひながら進み寄つた御用と聞いて磯右衛門が一ト足下つたそこへ飛び掛つた一人ピンリと利き腕を打つた、ポロリと脇差を



せん、私は此の村に居ります磯右衛門にごさいます」

それを聞いて目明しが目「ウーン磯右衛門か、何て脇差を抜いて二人を斬らうとした」

磯「へエ女は私の以前の女房で男は先年この村で店を

持つて居りました髪結の利助と申す者でございます、二人は私の目を忍びまして悪い事をいたしました、この村を立ち退きました、先月戻つて参り度々私共へ無心に來ますあまりに法外の事と存じ奴等を斬つてくれようと思つて出ましてござい

ます」

それを聞いて役人が役「ウーンさうかそれは二人が宜しくない、貴様の立腹するはもつともだコレく九助向ふに逃げた二人を此處へ連れて來い」

斯う云つた時に利助とおしんはそれへ來て

名主様の悴の與之助といふ十三になる男の子を符棒で打殺してございませぬ、その事をわたし共が知つて居りますから殺さうといたしました」

役「ウーンさうか、磯右衛門貴様は大罪人だぞコレく、女、貴様は何と申す」

しん「おしんと申します、此處に居りますはわたしの今の亭主、利助でございます」

役「左様か」

利「さうか」

役「何うぞ旦那御吟味を願ひます、磯右衛門はその弟の藤次と二人で名主様の悴を殺して柿の下に埋たさうでございます」

役「それは怪しからん事だサア磯右衛門此方へ參れ」と引立て、家に入る處へ隣の人知らせに依つて急いで来たのは例の藤次

藤「オイ兄貴、どんな事から縛られた身に繩を掛けられるやうな後暗いことは無からう」

それを聞いて役人が役「控へろ磯右衛門と貴様は人殺しをして居るぞ」

藤「それは飛んだ事でございます何者からそんな事をお聞きになりましたか」

役「それはそれなるしんと申す女が申して居るぞ」

藤「憎い奴でございます」

役「これに相意あるまい」

藤「そんな事は覺えございませぬ」

ときつぱり答へそれに居るおしんを見て藤「オイ姐さん、お前は悪

人だな、兄貴の男に踵を付けた上、ありもせぬ事をお役人に申し立てるとは」

しん「まあしらすらしくも能くもそんな事が云へたものだねえ、お前さんの見さん磯右衛門さんは名主様の悴を殺して其れをあの柿の木の下へ埋めたではないか掘出して見れば直判るよ」

其れを聞いて役人が役「ヤイこれ磯右衛門に藤次、かう云ふ證人があるが覺えないと云ふか」

聞かれて磯右衛門が磯「洵に恐れ入りました」と答へた。

**梅毒 淋病**

皮膚病 婦人病 胃性病

**松村 院**

腸胃病 十二指腸 腸虫病

院 醫科 腸病

〇七一話電

町南平

貸切の命は！

御用命は！

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ……(マツサキ)

三九二タクシーへ!!!

セメント 磐城セメント株式會社

壁用材料 コールタール 代理店

ペンキ塗料 西村屋藥舗

板 ガラス 平町二丁目電三

平新川町十九

産婦人科 木村病院

電話一六四番

院長 木村寅次郎

内臓外科 醫學士 内木宗八

整形外科 器尿外科

**吉田眼科病院**

平新川町、電話六八番

**お醤油は ヤマフル**

醤油味噌 たひら 正宗 鯉節 食料品

**山崎合名會社**

鹽屋

福島縣平町電話營業部二〇醸造工場

明治生命塔代理店 山崎與三郎